

平成28年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立桶川西中学校

はじめにお読みください。

＜調査の結果をご覧になる方へ＞

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体で学習への取組状況等を把握しています。また、平均正答率等、学校全体で情報を共有するとともに、分析を実施して自校の取組等の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせすることは、学校と保護者及び地域の皆様が情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、児童生徒の学力向上の取組を一層充実させることにつながると考えます。

このことを踏まえて、調査の結果をお知らせするにあたり、調査の結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 次に示す調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 平均正答率などの数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

＜全国学力・学習状況調査の概要＞

※「平成28年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

3 調査実施日

平成28年4月19日(火)

4 調査の内容

(国語・算数・数学) 教科に関する調査	主として「知識」に関する問題（Ａ） ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ② 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など 【小学校国語Ａ・算数Ａ 各２０分】 【中学校国語Ａ・数学Ａ 各４５分】	主として「活用」に関する問題（Ｂ） ① 知識・技能等を実生活の様々な場面で活用する力 ② 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 など 【小学校国語Ｂ・算数Ｂ 各４０分】 【中学校国語Ｂ・数学Ｂ 各４５分】
	児童生徒に対する調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語の勉強は好きですか、授業の内容はどの程度分かりますか、一日にテレビを見る時間、携帯電話等の使用時間、読書時間、勉強時間の状況 など 【小学校・中学校とも２０分程度】	学校に対する調査 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など

本校の調査結果の概況

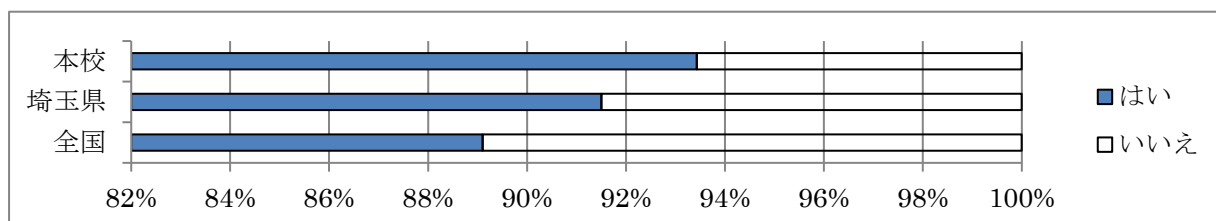
国語	Ａ（主として「知識」に関する問題）				Ｂ（主として「活用」に関する問題）			
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
話すこと・聞くこと	6	77.5	77.4	78.9	0	—	—	—
書くこと	4	73.7	72.5	73.7	3	58.8	57.0	58.3
読むこと	6	78.0	77.7	78.6	9	68.4	65.6	66.5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	77.0	73.7	73.9	0	—	—	—

数学	Ａ（主として「知識」に関する問題）				Ｂ（主として「活用」に関する問題）			
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と式	12	62.8	64.3	65.9	6	50.3	50.5	51.5
図形	12	65.3	65.4	67.1	2	38.2	34.4	33.3
関数	8	48.7	49.4	52.0	5	39.1	39.9	41.4
資料の活用	4	54.3	54.5	56.5	2	37.3	38.4	39.3

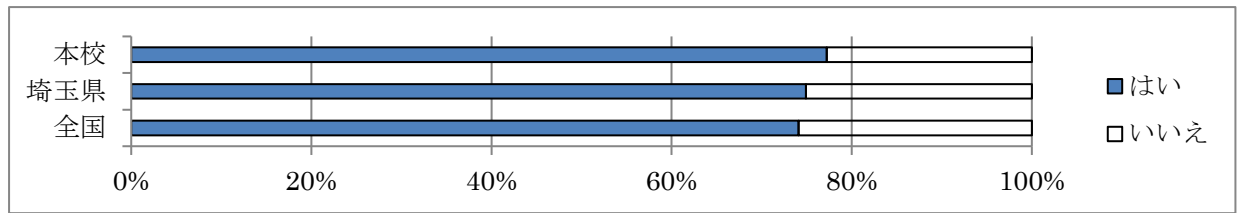
<生徒への質問紙調査>（主なものをグラフで表示）

国語の勉強は大切だと思いますか。

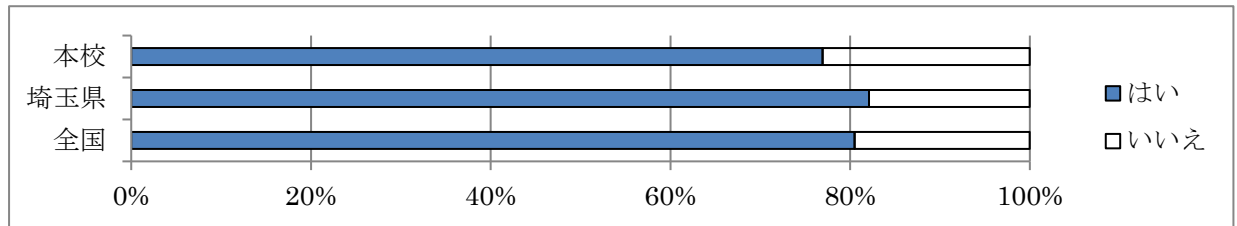
はい…そう思う、どちらかといえばそう思う
いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない



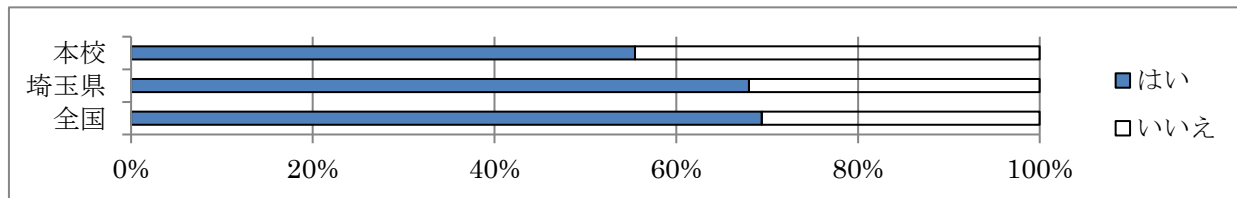
国語の授業内容はよく分かりますか。



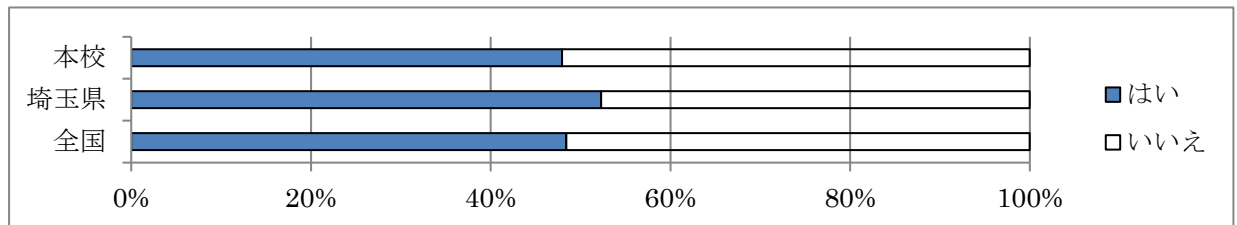
数学の勉強は大切だと思いますか。



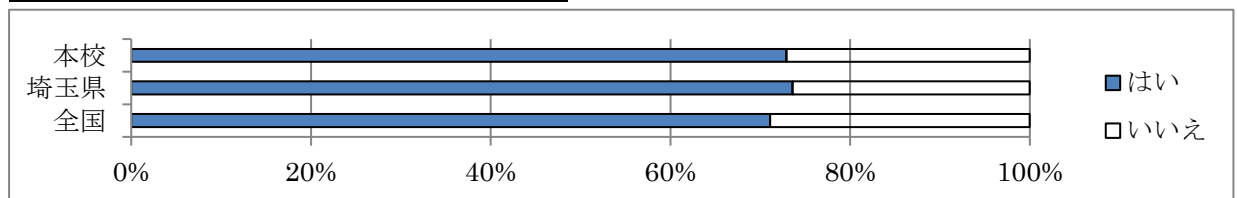
数学の授業内容はよく分かりますか。



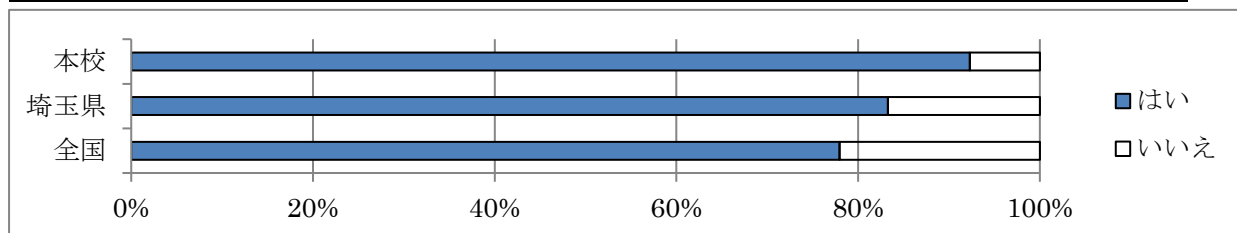
家で、自分で計画を立てて勉強していますか。



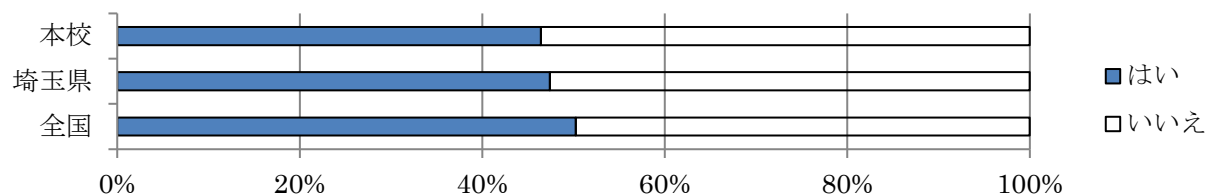
将来の夢や目標を持っていますか。



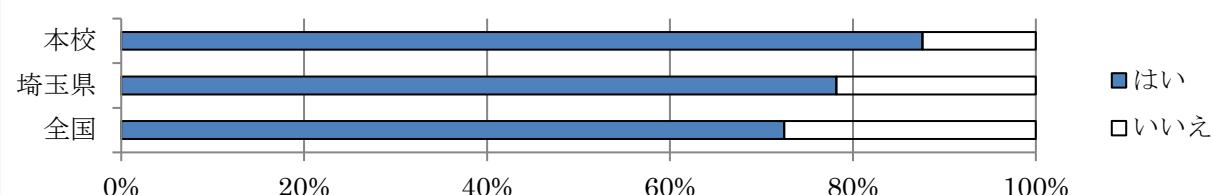
1、2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。



友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。



1,2 年生の時に受けた授業で、生徒間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかり伝えていたと思いますか。



本校の調査結果の分析・考察

<国語 A>

【領域別の分析】

《話すこと・聞くこと》では（本校 77.5 < 全国 78.9）とわずかに下回っている。「話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較する」ことの設問では全国を 10 ポイント近くも下回った。（本校 60.9 < 全国 70.6）

《書くこと》では、（本校 73.7 = 全国 73.7）と同じだった。「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」ことは上回ったが（本校 79.3 > 全国 78.1）、「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」という問いには無回答が 9.5 ポイントもいた。

《読むこと》では、（本校 78.0 > 全国 78.6）とわずかに下回った。「登場人物の言動を考え、内容を理解する」は上回ったが（本校 92.3 > 全国 90.0）、「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」は下回った（本校 78.1 > 全国 81.3）。

《伝・国の事項》では（本校 77.0 > 全国 73.9）と大きく上回った。漢字の読み書き、慣用句や敬語、辞書の意味、古典での仮名遣いや意味がかなり定着していると思われる。

【問題 5 二】

設 問

職場体験に向けて、確認の電話のリハーサル。「写真撮影」だけでは何を伝えたいのかが分かりづらいので、どのような言葉を付け加えるとよいですか？ 次の 1 から 4 までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。（選択式）

【問題 6 二】

設 問

この文章について説明したものとして最も適切なものを、次の 1 から 4 までの中から一つ選びなさい。（選択式）

《話すこと・聞くこと》 出題の趣旨：全体と部分との関係に注意して話を構成する 解 答 1 活動中の自分たちの様子を撮影してもよいですか。 〈分析〉 ☆正答率 本校 92.3 > 全国 88.7 ★誤答 2 : 1.8 % 3 : 2.4 % 4 : 3.6 % 無解答 : 0.0 % ※実際に昨年度に「職場体験」を行ってきた生徒たちは、その場面を思い浮かべながら解答できたのかもしれない。 ※設問も電話での会話の台本だったため、筋道が通ったものになるように解答できたようである。 そのため、前問（５一）の設問「相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて話す」でも正解率が高かった。（本校 94.7 > 全国 93.1）	《読むこと》 出題の趣旨：文章の構成や展開について自分の考えをもつ 解 答 4 生物の卵や種の仕組みを、人間が行う包装という観点で捉えている。 〈分析〉 ☆正答率 本校 60.4 > 全国 67.3 ★誤答 1 : 18.9 % 2 : 11.8 % 3 : 8.9 % 無解答 : 0.06 % ※「説明的文章」においての内容吟味である。長文の読み取りの基本的な問題である。本文中のキーワードをしばって選択肢をよく読めば該当するものはすぐに決まるはずである。しかし、その中に「成長」「開発の仕組み」など、二段階目の大切な用語が入っていると、そちらに目が行き、解答を誤ってしまう。（一段階目は「包装」・「機能」） ※今後、読み取り問題の経験を積ませたい。
---	---

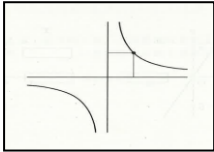
＜国語Ｂ＞

【領域別】 《書くこと》では、（本校 58.8 > 全国 58.3）とほぼ同じだった。「文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く」という問いには全国を下回った。 《読むこと》では、（本校 68.4 > 全国 66.5）とわずかに上回った。「文章の展開に即して内容を理解する」は大きく上回った。	
【 問題 1 二 】 設 問 「ちらし」にある関連イベントに参加することができる日付としてもっとも適切なものを一つ選びなさい。（選択式） 《読むこと》 出題の趣旨：目的に応じて必要な情報を読み取る 解 答 2 二〇一六年五月二十二日 〈分析〉 ☆正答率 本校 89.3 > 全国 83.3 ★誤答 1 : 7.7 % 3 : 1.2 % 4 : 1.8 % 無解答 : 0.0 %	【 問題 3 三 】 設 問 「図鑑の説明」を読むことで「物語の一部」のどの部分についてよく分かるようになりましたか。 よく分かるようになった部分と、その部分についてどのようなことが分かったのかを、次の条件１と条件２にしたがって書きなさい。 条件１ どの部分についてよく分かるようになったのかを明確にして書くこと 条件２ 条件１で取り上げた部分について、どのようなことが分かったのかを「図鑑の説明」の内容に触れて書くこと。（記述式）

※「長文読解」ではなく「博物館のちらし（表）（裏）」からの出題である。 長い文章を読んでから内容を把握するのとは違って、「ちらし」のいろいろな項目にいろいろな情報が書かれているので、よく見渡せば該当する箇所をすぐに見つけられるはずである。 問いから「開催期間中の日曜日」を見つけ出し、（表）から「5月21日（土）」が見つければ正答は「5月22日」の「（日）」になると考えられる。 ※本校で行っている授業で生徒たちは、美術科で「様々なポスター作り」をしたり、社会科で「歴史新聞」を作ったり、総合的な学習の時間では「上級学校調査の新聞」を作成してきた。その点から、生徒たちにとっては「得意分野」かもしれない。 早合点な生徒は「1 5月21日」をそのまま選んでしまったのかもしれない。	《書くこと・読むこと》 出題の趣旨：本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く 解 答 1 条件1、条件2を満たしているもの 〈分析〉 ☆正答率 本校 62.7 > 全国 57.7 ★誤答 2：条件1のみ 7.7 % 3：条件2のみ 13.0 % 4：それ以外 1.2 % 無解答：15.4 % ※「文学的文章」からの出題である。 「設問一」は、主人公の行動を物語の展開に沿って並び替える問題である（正答率 75.7%）。 「設問二」は、「物語」と「図鑑の説明」を対比させて、分かるものを選ぶ問題（正答率 63.3%）。 そしてこの「設問三」は、まず両者を結びつける部分と項目を見つけることができたうえで、「よく分かるようになったところ」と「どのようなことが分かったか」の2つを入れなくてはならない。無解答率の高さは、「手が出なかった」ということだろう。
--	--

＜数学A＞

【領域別】 「数と式」、「関数」の県・全国の正答率よりも下回っている。特に「数と式」については、1次方程式や等式変形などの形式的な計算はできているが、用語の意味をきかれる問題や文章問題に課題がある。また、全体的に知識を問われる問題に対応できていない。	
【2（1）】 ある数を3でわると、商が a で余りが2になります。ある数を a を用いた式で表しなさい。 （数と式） 答え… $3a + 2$ 〔出題の趣旨〕 数量の関係を文字式に表すことができる。 （数学的な技能） 〈分析〉 ・正答率 22.5 % < 29.1 %（埼玉県） ・無回答率 8.3 % ・最も多い誤答は、「$3a + 6$」であった。こ	【2（2）】 $(2x + 5y) + 3(x - 2y)$ を計算しなさい。 （数と式） 答え… $5x - y$ 〔出題の趣旨〕 整式の加法と減法の計算ができる。 （数学的な技能） 〈分析〉 ・正答率 76.9 % < 82.8 %（埼玉県） ・無回答率 3.0 % ・誤答の中で、「$5x - 3y$」「$5x + 11y$」と

れより、$\square \div 3 = a$ あまり 2 という式を立てることが出来ても、等式変形することが出来ない生徒が多いと予想される。また、除法の商と余りの関係を理解できていない生徒もいると考えられる。 授業内で、式を変形する際に、どんな操作を行っているのか明確にしながら進めていく。	解答している生徒が 7 % 以上いることから、その生徒は分配法則が理解できていないと考えられる。 - 計算をする過程でのケアレスミスに注意させる。 - この問題は、基本的な計算である。簡単な計算問題に取り組む時間を設け、正確さと速さを身につけさせていく。
【9 (4)】 下の図は、反比例のグラフで、点 A(3, 4) を通ります。このとき、y を x の式で表しなさい。 (関数)  答え…$y = \frac{12}{x}$ [出題の趣旨] 反比例のグラフ上からの点の座標から、x と y の関係を式で表すことができる。 (数学的な技能) 〈分析〉 - 正答率 24.3% < 29.5% (埼玉県) - 無回答率 17.2% - 比例の式や 1 次関数を答えた生徒が 40 % 以上いる。比例・反比例・1 次関数の区別ができていない。 - 無回答率が 2 割近くになっている。 - 関数の式を求めることを、単元ごとに確認し、区別して式を求めることが出来るようにしたい。	

数学B

【領域別】 数学 A に比べ、県・全国の正答率を下回る問題の割合は少ない。しかし、「数と式」が県・全国 of 正答率よりも下回っているものが多い。課題解決の見通しを持ち、与えられた情報から必要な情報を適切に選択することができるようになることが求められる。	
【6 (3)】 美咲さんは、数当てゲームを行うために、次の手順を考えました。 手順 ① 最初に数を 1 つ決める。 ② ① で決めた数に 10 をかける。 ③ ② の数から 8 をひく。 ④ ③ の数を 2 でわる。 ⑤ ④ の数に 14 をたす。 (3) 手順の⑤を変えて、手順通りに求めた数を 5 でわると最初に決めた数を当てることができる新しいゲームを作ります。 (⑤に当てはまる言葉を選択する問題) 答え…④の数に 4 をたす [出題の趣旨] 計算の過程を振り返って考え、数当てゲームの	【5 (2)】 あるボウリング場では、貸し出し用の靴をすべて新しいものに買い替えようとしています。そのために、貸し出し用の靴の総数や、過去 1 か月間に靴が貸し出された回数について調べました。 (2) 25.5 cm の靴を何足か買うかを考えるために、25.5 cm の靴が貸し出された回数の相対度数を求めます。その相対度数を求める式を書きなさい。ただし、実際に相対度数を求める必要はありません。 答え…$1087 \div 7260$ [出題の趣旨] 与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することができる。(数学的な技能)

新しい手順を考えることができる。 (数学的な見方や考え方) 〈分析〉 ・正答率 47.3% < 52.0% (埼玉県) ・無回答率 7.7% ・手順から、どのような計算が行われているか判断できない生徒が多い。 ・文章中から、数量の関係を読み取り、文字式に表すことができない生徒がいることがわかる。 ・授業内で、式を変形する際に、どんな操作を行っているのか明確にしながら進めていく。	〈分析〉 ・正答率 21.3% < 29.9% (埼玉県) ・無回答率 29.0% ・無回答の生徒が最も多かった。 ・相対度数を求めるために、どんな計算が必要なのか判断することができない生徒が多いことがわかる。 ・知識事項の復習を行うとともに、生徒が自分で立式できるように、指導に努めていきたい。
---	--

＜質問紙調査から＞

【質問】 1，2年生のときに受けた授業では，自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか ※要因・今後の対応等 回答結果 <table><tr><td>そう<u>思う</u></td><td>59.2 %</td></tr><tr><td>どちらかといえばそう<u>思う</u></td><td>32.0 %</td></tr><tr><td>どちらかといえばそう<u>思わない</u></td><td>7.1 %</td></tr><tr><td>そう<u>思わない</u></td><td>1.2 %</td></tr></table> <分析> 昨年度（思う 93.7%）から本年度（思う 91.2%）-2.5 ポイントである。特に本年度は、概念や法則、意図することを解釈して、説明したり活用したりする部分での表現活動は意図的に増やし、難しさもある。思考力、判断力を育成し、さらに多様な表現力の育成をすすめます。	そう <u>思う</u>	59.2 %	どちらかといえばそう <u>思う</u>	32.0 %	どちらかといえばそう <u>思わない</u>	7.1 %	そう <u>思わない</u>	1.2 %	【質問】 家で，学校の授業の復習をしていますか ※要因・今後の対応等 回答結果 <table><tr><td>そう<u>思う</u></td><td>23.1 %</td></tr><tr><td>どちらかといえばそう<u>思う</u></td><td>37.9 %</td></tr><tr><td>どちらかといえばそう<u>思わない</u></td><td>27.2 %</td></tr><tr><td>そう<u>思わない</u></td><td>11.2 %</td></tr></table> <分析> 昨年度（思う 70.1%）から本年度（思う 61%）-9.1 ポイントである。本校では、家庭学習の習慣を確立させるために、2 ページ学習を行っています。生徒一人一人のさらなる学力の向上を目指し、学習指導と家庭との連携をさらに強化していきます。	そう <u>思う</u>	23.1 %	どちらかといえばそう <u>思う</u>	37.9 %	どちらかといえばそう <u>思わない</u>	27.2 %	そう <u>思わない</u>	11.2 %
そう <u>思う</u>	59.2 %																
どちらかといえばそう <u>思う</u>	32.0 %																
どちらかといえばそう <u>思わない</u>	7.1 %																
そう <u>思わない</u>	1.2 %																
そう <u>思う</u>	23.1 %																
どちらかといえばそう <u>思う</u>	37.9 %																
どちらかといえばそう <u>思わない</u>	27.2 %																
そう <u>思わない</u>	11.2 %																
【質問】 1,2年生の時に受けた授業で、生徒間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか。 ※要因・今後の対応等 回答結果 <table><tr><td>そう<u>思う</u></td><td>35.5 %</td><td>どちらかといえばそう<u>思わない</u></td><td>8.3 %</td></tr><tr><td>どちらかといえばそう<u>思う</u></td><td>52.1 %</td><td>そう<u>思わない</u></td><td>4.1 %</td></tr></table> <分析> 本年度（本校 思う 87.6%）と（県 思う 78.2%）を比較し、+9.4 ポイントである。本校では、『主体的に学習に取り組む態度の育成⇔基礎的基本的な知識・技能の習得⇔知識・技能を活用して課題を解決するため必要な思考力・判断力・表現力の育成』を研究課題としており、表現力育成に関わる基礎的な学習が、生徒一人一人に着実に身につけていると考える。今後も、生徒一人一人の教育を充実させていきます。		そう <u>思う</u>	35.5 %	どちらかといえばそう <u>思わない</u>	8.3 %	どちらかといえばそう <u>思う</u>	52.1 %	そう <u>思わない</u>	4.1 %								
そう <u>思う</u>	35.5 %	どちらかといえばそう <u>思わない</u>	8.3 %														
どちらかといえばそう <u>思う</u>	52.1 %	そう <u>思わない</u>	4.1 %														

＜埼玉県学力・学習状況調査の概要＞

※「平成28年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会）より抜粋

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

小学校第4・5・6学年、中学校第1・2・3学年 原則として全児童生徒

3 調査実施日

平成28年4月14日（木）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

中学校第1学年 国語、数学

中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

本校の調査結果の概況

国語	第1学年			第2学年			第3学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)
話すこと・聞くこと・書くこと	4	54.2	56.7	4	55.1	54.9	4	54.1	51.9
読むこと	9	54.4	53.1	9	55.5	52.0	9	58.4	57.4
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	63.9	62.6	17	65.9	62.0	17	60.9	56.8

数学	第1学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)
小学校領域	数と計算	12	64.2
	量と測定	9	64.0
	図形	4	71.8
	数量関係	7	60.7

数学	第3学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)
中学校領域	数と式	14	64.4
	図形	9	67.6
	関数	5	46.5
	資料の活用	4	59.3

※ 数学の調査においては、第1学年の内容は小学校の学習内容から出題されています。
また、第2学年においても一部小学校の学習内容から出題されています。

数学 第2学年										
教科の領域等		設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)		教科の領域等		設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)
小学校 領域	数と計算	3	61.1	61.3		中学校 領域	数と式	12	63.9	67.6
	量と測定	1	49.1	48.0			図形	6	59.6	59.1
	図形	1	56.6	61.6			関数	5	64.0	59.9
	数量関係	1	25.1	29.7			資料の活用	3	42.9	45.1

英語	第2学年			第3学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)
聞くこと	10	57.7	60.6	10	71.2	65.5
話すこと	—	—	—	—	—	—
読むこと	21	57.9	57.4	23	66.7	61.9
書くこと	7	57.4	57.0	7	50.1	41.5

＜生徒への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：本校の達成率、下段：県の達成率、 は80%以上

内容	項目		第1学年	第2学年	第3学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る				
	① 登校時刻		100.0	96.0	97.6
			97.6	97.1	95.9
	② 授業開始時刻		99.4	96.6	99.4
			98.1	97.1	96.3
	2 身の回りの整理整頓をする				
	③ 靴そろえ		94.2	88.6	90.0
			92.3	90.8	89.7
○礼儀正しく人と接することができる	④ 整理整頓		85.1	85.7	88.8
			85.7	84.3	83.3
	3 進んであいさつや返事をする				
	⑤ あいさつ		92.9	89.7	86.5
			85.7	84.0	81.7
	⑥ 返事		98.1	92.0	93.5
			91.3	87.1	86.3
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける				
	⑦ ていねいな言葉づかい		98.1	92.6	94.7
			92.3	90.1	90.3

		⑧ やさしい言葉づかい	93.5 89.9	86.3 84.6	85.9 84.5
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る				
	⑨ 学習準備		95.5 92.0	91.4 87.5	89.4 86.0
	⑩ 話を聞き発表する		83.8 77.6	70.9 67.7	71.8 66.4
	6 生活のきまりを守る				
	⑪ 集団の場での態度		95.5 93.6	92.6 91.2	95.3 91.6
	⑫ 掃除・美化活動		88.3 87.9	88.6 83.7	91.8 82.2

本校の学力向上の取組

授業における取組

- 基礎学力の定着
 - 学習のめあての表示や振り返りの時間を授業の中に設定して、1時間の授業の中で「何を学んだのか」を明確にします。
 - 情報機器を積極的に活用して、生徒の関心や意欲を高める授業づくりをします。
 - 小テストや単元テスト等の確認テストを実施して、学習の振り返りを行い、基礎学力の定着を図ります
- 学び合いの充実

少人数やグループでの話し合い活動を通して、互いの意見を交換し、「伝える力」の育成につとめ、基礎を活用する力を育成します。
- 個別指導の徹底

指導と評価の一体化を通して、適切な評価を行い、それぞれの生徒の達成度にあわせて手立てを示します。

授業以外の取組

- 家庭学習習慣の確立
 - ・2ページ学習（自主学習ノート）の活用による家庭学習の習慣を確立させます。
 - ・長期休業明けに、確認テストを実施します。
- 補充学習の設定
 - ・定期テスト前に質問日を設けたり、長期休業中に補習を設定したりして、補充学習の時間を確保します。
- 校内テストの活用
 - ・年2回の校内テストを実施。データ学力の伸びを分析して、学習指導上の手立てを改善するとともに、生徒一人一人の学習の定着を図ります。

本校の学力向上プラン

平成28年度		学力向上全体計画		梶川市立梶川西中学校	
・日本国憲法 関係法規 学習指導要領 ・埼玉県小中学校教育課程編成要領 ・埼玉県教育行政重点施策 ・指導の重点・努力点等		学 校 教 育 目 標 志を持ち 自ら学ぶ 健康でたくましい生徒		・地域の実態 ・生徒の実態 ・保護者の願い ・教師の願い ・期待される生徒像 ・学力向上に係る「学校課題」	
学校経営方針 「きれいな環境の中で豊かな心と豊かな学びがある学校」 一人一人に「基礎・基本」を確実に身につけさせる、わかる授業を展開する。					
目指す学校像 学ぶ楽しさが味わえる、「わかる授業」が展開され生徒が意欲的に学習する学校		目指す教師像 意欲的に研修に努め、専門職としての向上心と倫理観をもった教師		目指す生徒像 自ら学習に取り組み、基礎・基本をしっかりと身につけた生徒	
各教科の指導の重点 ○学習の動機付けの強化 ○必然的な知識・技能の活用を得る教材、単元開発 ○言語活動の充実を図るための学習過程、学習形態の工夫 【国語】 ・学年に応じた漢字指導、「書く」場を意図的につくり言語活動を充実させる。 【数学】 ・生徒による問題解決や話し合い活動の時間を設け、生徒主体の授業をしげる。 【社会】 ・事例について考察・判断し、その成果を自分の言葉で表現する学習を行う。 【理科】 ・実験・観察→結果→考察の過程を通して基本的定着を図る。 【英語】 ・ペアやグループなどの学習形態を工夫し、自己表現の場を多く設定する。 【音楽】 ・聴く力、感じ取る力の育成。表現、合唱づくり。 【美術】 ・制作カードの活用、発想トレーニングテスト、体験活動を重視する。 【保健体育】 ・課題を指摘し、あえるようペア学習を取り入れる。 【技術・家庭】 ・生活の自立に必要な知識技能の習得、実践的な活動を重視する。		本校の課題 ・学習意欲の喚起と学習規律の向上 ・基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着 ・既習内容を活用した思考力・表現力の向上		各領域等の目標及び内容 【道徳教育】 ・生徒の心に響くような道徳の授業実践を図る。 ・学校の教育活動全体を通して、道徳的実践力の育成を図る。 【特別活動】 ・望ましい集団活動を通して、よりよい人間関係を築き、集団の一員としての役割と自覚をもって行動できる生徒を育成する。 【総合的な学習の時間】 ・自ら課題を見つけ、自ら学び考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する能力や資質を育てる。 ・学び方やものの考え方を身につけ、探求した内容を発信していく自己表現能力を育てる。 【生徒指導】 ・学習規律や生活規律について共通理解を図り、職員の間で共通理解を徹底する。 ・生徒指導体制の見直し、改善を図る。	
④課題の絞り込み ○新たな課題の確認と分析 ・次年度の教育計画、全体計画、年間指導計画への位置づけ ・課題解決プランの見直しと修正 ・校内分掌体制の見直し ①課題を解決するための計画 ○学習状況調査、三つの検証を元にした指導計画・指導方法の改善案の立案 ・全職員に共通理解を図る。 ・保護者、地域住民への広報活動(懇談会、学校だより) ・課題解決プランの作成 ③実態の把握 ○多方面からの学校・職員・生徒の実態把握 ・学力調査(3つの達成目標、学力調査)等による生徒の実態の把握 ・学校評価による本校教育活動の成果と課題の把握 ②計画に基づく指導の実践 ○課題解決プランに基づく全職員共通行動による指導の実践 ・各教科等の指導の実践 ・校内研修の充実と実践 ・関係者機関との連携 ・地域、保護者との連携 PDCA スパイラル					
改善状況を把握する指標の設定(H28全国学力・学習状況調査による) ○学習評価(正答率)の設定(全国平均を基準とする) 国語A・B正答率 全国平均より2ポイント上 数学A・B正答率 全国平均より1ポイント上 ○質問紙調査における回答率の設定「あてはまる」「ややあてはまる」 「生徒間で話し合い活動を行っているか」 85%以上 「800～1200字で感想文や説明文を書くことは難しいか」 70%以下 「自分の考えを説明したり文章を書くことは難しいか」 70%以下					
	I	II	III	IV	
改善の観点	指導内容・指導方針の工夫	教育課程編成上の工夫	学習評価活動の工夫	家庭・地域社会との連携の工夫	
取組の基本方針	基礎・基本の着実な定着とそれを活用する場を設定すると共に、学習形態の工夫をする。	授業時数を確保し、生徒の実態を把握した、指導計画、教材の準備等を計画的に行う。	生徒のよい点や進捗状況の積極的評価を指導に生かす。	基本的な生活習慣や学習習慣を身につけさせる。言語活動を充実させる。	
課題解決のための具体的取組	○教育に関する3つの達成目標推進計画の計画的な実施 ・少人数指導、TT指導等に応じた指導・定期テストへの取組(補習、個別日の設定)	○各教科、各学年間の系統的、発展的指導の工夫 ・単元配当時間上の工夫 ・思考力・判断力・表現力を高めるための授業展開の工夫改善 ・情報活用能力の育成と情報モラル指導	○年間指導計画に基づいた評価計画の作成 ・学習目標の明確化とシラバスの作成 ・生徒の自己評価や相互評価を生かした評価能力の向上	○教育に関する3つの達成目標の家庭への啓発と評価の実施 ・朝の登校指導、あいさつ運動 ・親子除草、おやじの会 ・祭りの巡回指導(祇園、日出谷、川田谷) ・落ち葉掃きボランティア	
関連する行事等	・朝礼参書 ・教育支援担当者訪問 ・学校課題研究紙上発表	・校内研修 ・学校課題研究推進委員会 ・教育課程編成委員会	・通知表 ・テスト結果	・学校、学年、学級だより ・授業参観、保護者会、公開日 ・PTA総会、バザー	

保護者・地域の皆様へ

本校では、学習、生活環境において、計画的そして継続的に交流の場を設定することで言語環境を整備させることを課題としています。本年度＜埼玉県学力・学習状況調査の概要＞＜全国学力・学習状況調査の概要＞一質問紙調査結果からは、《自ら考え、自分から取り組んでいた、話し合い活動をよく行っていた、自分の考えをしっかりと伝えていた》のアンケート項目において、県平均を上回りました。これらは、学習、生活環境において、生徒一人一人の達成度にあった手立てが示され、基礎的・基本的な知識の定着から、思考力・判断力・表現力へとつながり、学習意欲がさらに向上していると考えられます。調査結果を踏まえて、今後も生徒一人一人が、向上心をもって健康に学校生活を送れるよう、教育活動をすすめてまいります。また、ご家庭との連携を保ち、学校と家庭における生徒の学習習慣確立においても、指導を徹底していきます。

生徒は地域や地域の人々との触れ合いからも多様に学んでいます。学校、家庭そして地域で子供たちを育てられるよう、学校だより等からも情報を発信してまいります。

